

No. 90

1990.

7. 20

# 岐阜の博物館

〒501-32 関市小屋名  
(百年公園内)  
岐阜県博物館内  
岐阜県博物館協会  
TEL 0575-28-3111(代)  
振替 名古屋 6 37909

## ふるさとの「へそ」文化をさぐる

— 21世紀への活力を求めて —

廣 田 照 夫

私たちのふるさと〈岐阜県〉を語るシンボリックな言葉が二つある。

一つは「美濃を制する者は、天下を制する」である。

本県は日本列島の真中、いわゆる「へそ」ともいえる地域を占め、北部の飛騨地方と南部の美濃地方とからなる「海のない県」である。

美濃地方の西には、ちょうど列島を東西に分断するかのよう、鈴鹿山脈と伊吹山地が南北から迫り、わずかなはざま、関ヶ原の地で、東と西がかろうじてつながっている。このわずかなはざまに、古代には列島の背部を貫通する東山道が通じ、今は交通機関がひしめいて、東西を結んでいる。かつて、大海人皇子は美濃の兵士とこのはざまを掌中にして大友皇子を破り、天武天皇となった。信長はこのはざまを指呼に望む岐阜城を落し、「天下布武」の印章を刻して覇者への道を急いだ。家康はこのはざままで、天下分け目の合戦に勝利し、美濃に細分割統治策を打ち込んで、徳川三百年の礎を築いた。いかに、列島の「へそ」—美濃の地が政治・軍事・交通の要所だったかを歴史は語っている。

だが、本県の日本列島における「へそ」的存在は、それだけのことではない。列島の地勢と気候から織り出された自然環境と人びとの生活や文化とのかかわりにおいても本県は「へそ」的存在なのである。

列島の森林は、気候によって本県を境に、西は暖帯性の常緑広葉樹林、東は温帯性の落葉広葉樹林に分かれている。この東西に大きく異なる自然環境から、遠い昔、東に狩猟採集生活を

基盤とした縄文文化がおこり、西に稲作生活を基盤とした弥生文化が育った。両文化は時を異にしなが、その成熟期にいわたる「へそ」地域で交叉して、東西へ波及して行った。「へそ」地域—本県は長い時間のなかで、成熟した両文化を吸収しながら独自の文化、いうなれば「へそ」文化を、すでにその頃から育てて来たのである。さらに「へそ」文化は、「陸の動脈」東山道—中山道から流入する東西文物を消化しながら、その特徴を一層鮮明にして来たといえよう。

もう一つは「飛山濃水」である。

飛騨は高峻な山々に囲まれた山岳地域であり、美濃は木曾・長良・揖斐の三川が貫流する肥沃な平野地域である。昔から飛騨の生活は山を中心に、美濃の生活は川を中心に営まれ、それぞれに山と川の文化を育てて来た。今日、私たちが伝統産業と呼んでいる木工・陶器・和紙・刃物・織物は、飛騨の木と美濃の水を得て育った産業である。しかし、「木と水」—この自然の恵みの背後には、山の民、川の民たちの苛酷な山や川との闘いの歴史が秘められている。

「飛山濃水」とは、両地方の生いたちからみれば、東西の「陸の文化」に対し、北の日本海、南の太平洋の波をそれぞれにかぶった「海の文化」ともいえよう。私たちのふるさは、まさに、日本列島の東西と南北の結節点にあって、それぞれの文化を吸収融合しながら、独特な「へそ」文化を築いて来たといえる。

ふるさを語る二つの言葉を、いま一度問い直し、そこに21世紀への新しい活力の芽を期待したいのである。(岐阜県博物館協会顧問)

# 平成元年度 岐阜県博物館協会歳入歳出決算書

(平成2年3月31日現在)

歳入総額	1,149,790円
歳出総額	1,040,686円
差引残高	109,104円

## ★歳入の部★

(単位 円)

科 目	予 算 額	収 入 済 額	増 減 (△)	備 考
会 費	548,000	567,000	19,000	
補 助 金	490,000	490,000	0	岐阜県 390,000円 岐阜市 100,000円
雑 入	1,047	837	△ 210	預金利息 837円
前年度より繰越金	91,953	91,953	0	
合 計	1,131,000	1,149,790	18,790	

## ★歳出の部★

(単位 円)

科 目	予 算 額	支 出 済 額	残 額	備 考
事務局費	346,000	287,763	58,237	
通信連絡費	131,000	87,073	43,927	
印刷費	20,000	13,600	6,400	
需用費	20,000	20,000	0	
表彰費	164,000	164,000	0	
振替手数料	1,000	0	1,000	
慶弔費	10,000	3,090	6,910	
機関紙費	337,000	326,457	10,543	年4回発行
印刷費	200,000	200,000	0	第86号 6. 30
通信連絡費	70,000	70,000	0	第87号 10. 15
取材費	57,000	50,792	6,208	第88号 12. 28
会議費	10,000	5,665	4,335	第89号 3. 31
公開講座費	140,000	127,182	12,818	年4回開催
開催費	85,000	76,590	8,410	第40回 5. 17
印刷費	10,000	10,000	0	第41回 8. 3
通信連絡費	30,000	29,092	908	第42回 11. 20
会議費	15,000	11,500	3,500	第43回 2. 17
三県交流研修費	50,000	48,450	1,550	当番県 三重県
東海博総会費	40,000	38,831	1,169	当番県 山梨県
日博協全国大会	25,000	22,110	2,890	会場 名古屋市
總會費	73,000	72,060	940	5月9日
通信連絡費	15,000	15,000	0	於：岐阜市科学館
食糧費	33,000	32,060	940	
会議費	25,000	25,000	0	
協会会員研修会費	60,000	60,000	0	年3回開催
常任理事会費	60,000	57,833	2,167	3月9日
会議費	20,000	20,000	0	於：フジ会館
旅費	40,000	37,833	2,167	
合 計	1,131,000	1,040,686	90,314	

## 平成2年度 岐阜県博物館協会歳入歳出予算書

### ★ 歳入の部 ★

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
会 費	514,000	548,000	△ 34,000	
補 助 金	490,000	490,000	0	岐阜県 390,000円 岐阜市 100,000円
雑 入	1,340	1,047	293	預金利息
繰 越 金	109,104	91,953	17,151	
合 計	1,114,444	1,131,000	△ 16,556	

### ★ 歳出の部 ★

(単位 円)

科 目	予 算 額	前年度予算額	増 減 (△)	備 考
事 務 局 費	302,444	346,000	△ 43,556	
通信連絡費	141,444	131,000	10,444	
印刷費	30,000	20,000	10,000	
需用費	40,000	20,000	20,000	
表彰費	80,000	164,000	△ 84,000	表彰楯作成費(板)
振替手数料	1,000	1,000	0	
慶弔費	10,000	10,000	0	
機 関 紙 費	357,000	337,000	20,000	機関紙
印刷費	210,000	200,000	10,000	岐阜県の博物館
通信連絡費	80,000	70,000	10,000	年 4回発行
取材料費	57,000	57,000	0	
会議費	10,000	10,000	0	
公 開 講 座 費	140,000	140,000	0	年 4回開催
開催費	85,000	85,000	0	
印刷費	10,000	10,000	0	
通信連絡費	30,000	30,000	0	
会議費	15,000	15,000	0	
会 員 研 修 会 費	60,000	60,000	0	年 3回開催
開催費	40,000			
通信連絡費	20,000			
三 県 交 流 研 修 会 費	45,000	50,000	△ 5,000	当番県 愛知県
東 海 博 連 協 総 会 費	45,000	40,000	5,000	会 場 横浜市
全 国 博 物 館 大 会 費	32,000	25,000	7,000	会 場 金沢市
総 会 費	73,000	73,000	0	5月7日(月)
通信連絡費	25,000	15,000	10,000	於：岐阜県博物館
食糧費	30,000	33,000	△ 3,000	午前 役員会
会議費	18,000	25,000	△ 7,000	午後 総会
常 任 理 事 会 費	60,000	60,000	0	
会議費	20,000	20,000	0	
旅費	40,000	40,000	0	
合 計	1,114,444	1,131,000	△ 16,556	

## 第44回 公開講座報告

# 大威徳寺遺跡とその関連を探る

とき 平成2年5月10日  
ところ 下呂町民会館  
講師 郷土史家 今井 精一氏  
担当 飛騨地区公開講座委員

本年度最初の公開講座を下呂町観光課、同教育委員会のご理解とご協力のもとで実施した。

今回は、初めての試みとして、午前中に講演会、午後に見学を実施するという案で進めたため、比較的ゆったりした日程となり、特に午後からの現地見学にゆとりを持って行うことができた。

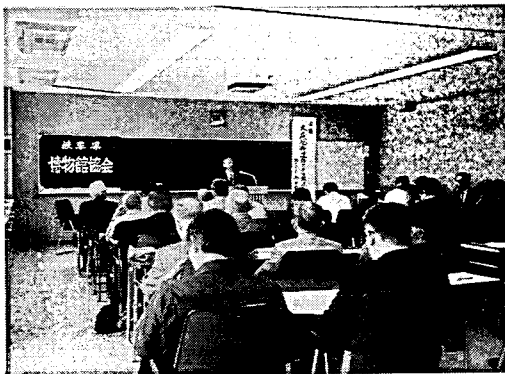
また、午前中の講演内容について実際に現地を訪れて遺跡を見学できたことは、普段訪れにくい所だけに、参加者から大変好評を博した。

### ◇ 今井先生の講演要旨

#### 1. 威徳寺とのかかわり

恵那中学時代、当時の校長阿部栄之助先生が夏休みの宿題として伝承記録を提出するように指示があったとき、威徳寺を取り上げたことによる。阿部栄之助先生は大変興味を持たれ、その後の調査で威徳寺の伽藍配置が明らかになるにつれて、村民の関心も深まってきた。

威徳寺遺跡は、最初は大正7年岐阜県知事によって県指定の史跡となったが、戦後は昭和34年県教育委員会により「鳳懸尾山大威徳寺跡」



として指定を受け、現在に至っている。県教育委員会の指定の折、遺跡の管理を任されてから多くの見学者に遺跡の説明をしてきたが、その回数は1000回以上になる。

遺跡の位置は明確であるが、学術的な調査等による資料は微々たるものであり、今後の総合的な調査が望まれる。

#### 2. 威徳寺の歴史

源頼朝は、1192年征夷大将軍に任ぜられた折に、文覚に命じて全国の適地に寺院を建立させたが、威徳寺はその一つとして1194、5年頃建立されたと考えられる。

この地に建立された理由は、

- ① 木曾、飛騨、美濃三国の接する位置にあり三国を抑える要害の地であること。
- ② 北濃、東濃方面は平氏の残党がおり、その動静を監視する必要があること。
- ③ 源氏に万が一の時には一つの拠点となりうること。

等があげられ、文武の要地であった。

文覚と頼朝との関係については、文覚が京都の東寺の修復にあたってその費用を後白川法皇に強要したため、伊豆の頼朝の近くに流罪となったことから始まる。文覚の1185年頼朝への挙兵の勧めが、これ以後の源平の争乱となっていくことになる。文覚は、頼朝の死後謀反の罪で佐渡へ流罪となり、その後しばらくして消息不明となった。全国を放浪していたらしく、この地へもやって来たのではないかと。

広島が終焉の地となったらしく、この地に彼のものと伝えられる法具と文書が残っており、碑が建立されている。

#### 3. 威徳寺の規模

高山宗猷寺の文書には七堂伽藍と十二坊があ

ったとされており、またその所領は、長滝寺に残されている威徳寺多聞坊の慶俊による天正10年の記録に伊豆、箱根、熊野、白山、乗政、跡津、小郷とある。

本堂他の建物の位置は山の尾根筋の平坦部にあり、のろし台や砦跡が周辺に残されている。また、濠の跡もあることから山城的な状況にあったと考えられる。

#### 4. 壊滅とその後の状況

この寺の衰退の原因となったのは、1556年（弘治2）に福岡城主（のち苗木）遠山友勝が飛騨侵攻を行った際、桜洞城主の三木良頼がこの寺に拠って防戦したことによる。（一説に1563年）さらに、1585年（永禄6）に大地震がおこり、建物等ことごとくが崩壊してしまった。奥白川の帰雲城が、地震によって崩壊した土砂に埋没してしまったのはこの時と言われている。

多聞坊の慶俊は郡上の長滝寺を頼ってその地へ移った。その後、高山の宗猷寺開山の南叟和尚が再興を図ったが実現せず、今日に至っている。

威徳寺ゆかりの観世音菩薩、延命地藏尊、薬師如来の三体の仏像と山号は宗猷寺に移され、管理費として御厩野邑より年貢米一石八斗余を明治4年迄納入していた。その他の関連遺物も東白川村、坂祝町等の各地の寺院に納められている。

#### ◇見学

下呂温泉合掌村、峰一合遺跡と中部山岳考古館、大威徳寺遺跡の3か所を見学した。

今回の見学では、大威徳寺遺跡をしっかりと見てみたいということから、時間配分を考えて、2か所については比較的短時間で済ませて大威徳寺遺跡へと向かった。

遺跡への入り口は、国道257号線沿いの「ドライブイン舞台峠」近くにある。国道からそれて分譲別荘地への急な坂道をしばらく登ると文化財の標柱が目に入ってくる。「米搗平」とい

われているところで、このあたりから上の尾根筋一带に遺跡が残っている。それぞれの遺跡には、案内を兼ねた標柱が立てられており、見学者への便宜が図られている。

本堂跡や山門跡は、明治時代の初め頃に開墾され、その後の植林によってうっそうとした木々の中に点在する。山門跡の近くには、明治2年に伐採された「秩父杉」と名付けられた杉の切株が残っており、その大きさは幹回りが子供14～15名でやっと取り囲める程のもので、現在まで切らずに残されていれば貴重なものになっていたと考えられるだけに、残念なことであった。

今井先生の案内で各所を見学して回ったが、午前中の講演の内容と合わせてまことに有意義な一日であった。この紙上を借りて、先生に深く感謝の意を申し述べたい。

#### ☆ 次回公開講座のご案内

##### 岐博協第45回 公開講座

期 日	平成2年8月2日（木）
場 所	藤橋村
内 容	旧徳山村の民具について
講 師	一宮市文化財保護審議会委員 日本民具の会評議員 協田 雅彦氏

上記の内容で予定をしていますので、多数の皆様のご参加をお願いします。



## 第13回 会員研修会報告

# 展示でつかえるビデオ作り

### 平成2年度 会員研修会日程

	期 日	内 容	会 場
第16回	6月1日(金)	テーマ；「展示でつかえるビデオ作り」 講 師；NHK TV・チーフ カメラマン 前川育也氏	内藤記念くすり博物館
第17回	9月19日(木) ～ 20日(木)	第1日目；奥美濃地区を例とした地域博物館のあり方 講師；交渉中 夜；研修及び懇親会 第2日目；博物館見学	奥美濃地区 会場及び宿泊先は 交渉中
第18回	12月11日(火)	テーマ；「手づくり展示・解説パネル等」 提案者 岐阜県博物館員等	岐阜県博物館

第16回研修会は、下記要領で実施した。

#### 研修内容

講 演；「展示でつかえるビデオ作り」

講師；NHK TVニュース・チーフ・カメラマン 前川 育也氏

展示場見学；「展示場見学とコンピュータの活用例など」

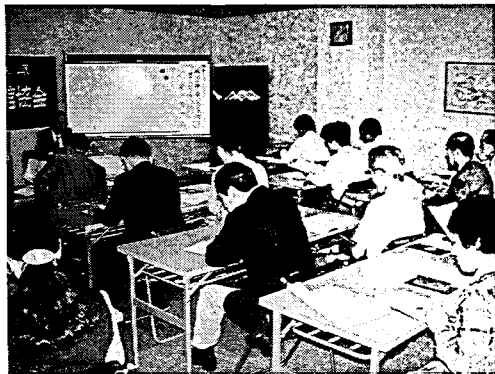
解説者；内藤記念くすり博物館・藤田館長及び当館解説員

参加者： 24名

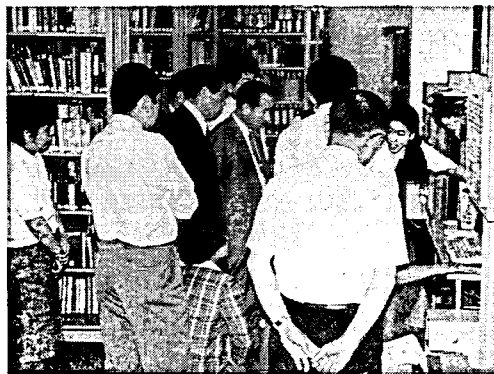
当日はあいにくの雨天であったが、遠くは高山市をはじめ各地から24名の参加者を得て行われ、充実した研修会であった。

前川育也氏による、実体験をもとにしたビデオの装作のしかた、また、ビデオ撮影の実技を通しての作品講評などは、即活用できるものとしておおいに参考になった。

コンピュータの活用については、生涯学習の場としての博物館の効率化にとって是非必要なことと痛感した。



研 修 会 風 景



コ ン プ ュ ー タ 活 用 の 解 説 風 景

印籠美術館

〒506 高山市大新町1丁目98番地  
TEL 0577-32-8500

当美術館では、江戸時代の印籠を約300点展示致しております。

300点の印籠には、帯に提げる時の止め具の役目をする、細密な技巧を凝らした根付、印籠と根付を絹紐で繋ぎ、印籠の各段の開閉を調節する緒締、この三具がすべて完全に整い、約160平方メートルの1階展示場に、覗きケースで展示されています。

当美術館の建物は、明治21年に建てられた土蔵で、旧来の伝統的な日本の古美術品の収蔵方法を継承しております。

当館の収集品が主に蒔絵の印籠のため、照明による熱を避ける目的で間接照明とし、土蔵という自然を利用した方法で、伝統的美術工芸品の保護保存を心がけています。

2階展示場には印籠に関する作品の他、17

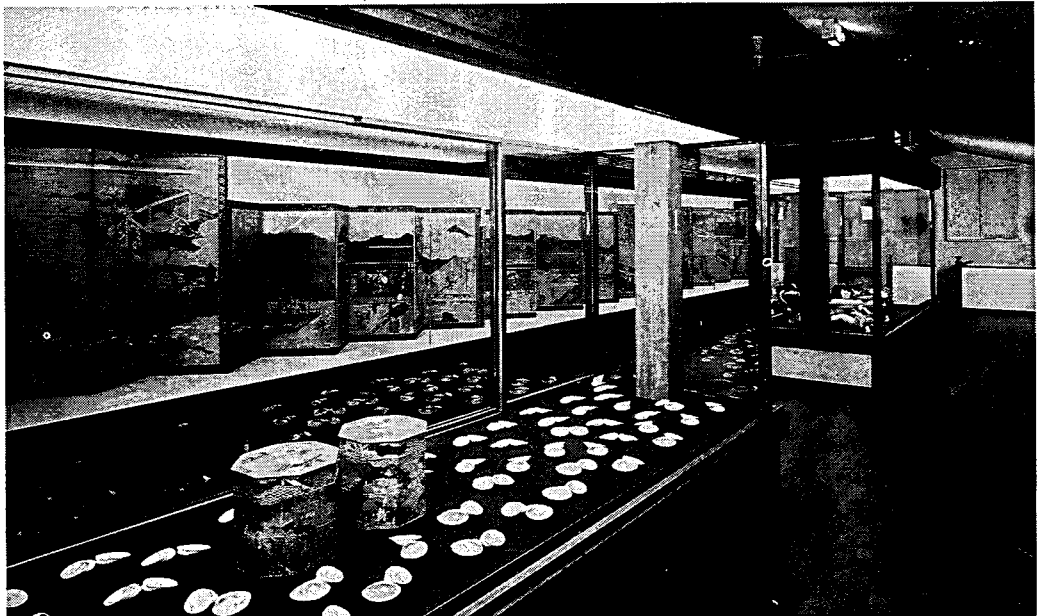
世紀初めの風俗図屏風（印籠を提げた人物が多数登場）や源氏物語図屏風、貝桶、合貝、江戸時代の人形等をゆったりとしたガラスケースに陳列致しております。

印籠といっても今は一般に馴染みが薄いのですが、江戸時代には携帯用菜入れの名称として定着し、男性装身具として流行し、次第に実用性より装飾性に重きがおかれ、形態、意匠、技法ともに江戸時代の工芸技術の粋を集約するものとなりました。

当館の印籠も、元禄時代から約200年にわたる著名な作者の作品を網羅し、画題は花鳥、風月、日本・中国の故事、源氏物語、伊勢物語から江戸庶民の風俗にまで及び、さながら小天地に森羅万象が見られるかのようです。

飛騨高山の春の山王祭、秋の八幡祭では、裱姿の氏子たちが、印籠を腰に提げて神輿を警固しますが、現在印籠が実際に使われるのは全国でもこの地だけです。

近年とみに江戸文化が高く評価されている折、私が30年間情熱を注ぎ国内はもとより、広く海外からも収集した印籠の魅力を多くの方に見ていただきたく、又、高山は修学旅行の学生さ



人も多く、若い方達にも、江戸文化を理解していただけたらという思いで、展示公開致しました。

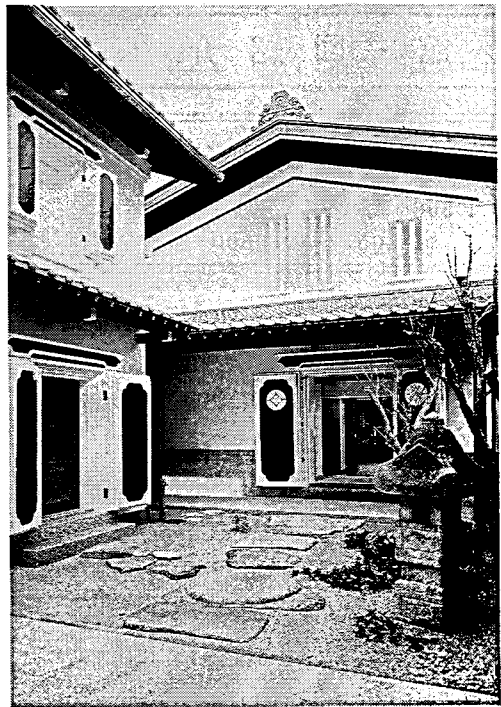
今後、当館が、岐阜県における文化振興に役立つことができればと、願っております。

(館長 柳 禮子)

飛騨高山印籠美術館

開館日

3月1日～11月30日



開館時間

3月・11月 9:00～4:30  
(入館4:00まで)

4月～10月 8:30～5:00  
(入館4:30まで)

休館日

12月1日～2月28日

入館料

大人 = 300円(250円)

高中学生 = 200円(150円)

小学生 = 100円(50円)

( )内は団体20名以上

平成2年度

## 東海地区博物館連絡協議会 日本博物館協会東海支部総会報告

平成2年6月12日(火)、13日(水) 神奈川  
県で開催されました。

総会は、昨年3月完成したばかりの横浜美術  
館のレクチャーホールを会場にし、東海5県か



ら114名の参加で行われました。

最初に来賓として、日本博物館協会専務理事の毛利正夫氏が「生涯学習としての博物館の役割りと協会の重要性」について話され、神奈川県教育委員会社会教育部長今福寛氏のあいさつの後、次の3名の方の表彰がありました。

樹神 弘さん

(岩村町歴史資料館—岐阜県)

遠藤 永太郎さん

(財団法人美技きもの資料館—山梨県)

太田 正さん

(山梨市立万力動物園—山梨県)

続いて、平成2年度の事業計画並びに予算(案)等の提案があり承認されました。

1日目の研修は、市政100周年・開港130周年を記念する横浜博覧会と同時に開館した横浜美術館の視察でした。

横浜美術館は、市民の美術に対する多様なニーズにこたえる場として広く近代現代美術の鑑賞と市民の創造活動に寄与し、豊かな市民文化形成に役立つことを目的にして建てられており、市民が自由に美術にとけ込め「創る」ことが出

来る子どものアトリエ、市民のアトリエも設けてありました。

2日目の研修は、県立神奈川近代文学館で神奈川に関係のある文豪の原稿・書簡等の収集品に接することができました。

続いて、横浜市の東南部元本牧海岸沿いの三つの溪谷にまたがって造られている名園・三溪園を視察後解散となりました。

来年度の開催県は、岐阜県ですのご協力方よろしくお願いします。

(事務局 武田)



## ≡ 県内ニュース ≡

### ◎ 岐阜県博物館協会総会開かる

平成2年度通常総会が5月7日(月)、岐阜県博物館で行われました。本年度の役員の一部が次の通り選任されましたので報告します。

- ・名誉会長 梶原 拓 (岐阜県知事)
- ・会 長 蒔田 浩 (岐阜市長)
- ・副会長 平田吉郎 (高山市長)
- 青木允夫 (内藤記念  
くすり博物館)
- 伊藤秀幸 (岐阜県博物館)
- ・理事長 松本五三



## ◎ 岐阜県博物館協会表彰

平成2年度総会場で次の8氏が表彰されました。

### ◇坪井市次郎氏

白鳥町歴史民俗資料館・ふるさと生活博物館の建設並びに運営に多大の貢献をされました。

### ◇坂本重次郎氏

飛騨民俗考古館の開設をされ、博物館界のため多大の貢献をされました。

### ◇藤井紘一

藤井美術館の開設並びに岐阜県博物館協会常任理事として博物館界のため多大の貢献をされました。

### ◇大江昇三氏

宮村民俗資料館の開設、並びに運営に多大の貢献をされました。

### ◇駒田一夫氏

岐阜城館長として尽力され、博物館運営に多大な貢献をされました。

### ◇加藤よね子氏

岐阜県陶磁資料館の普及活動並びに岐阜県博物館協会機関紙委員として尽力されました。

### ◇平光明彦氏

岐阜県博物館開設準備室および岐阜県美術館開設準備室に勤務され、永年にわたり博物館界のため多大な貢献をされました。

### ◇丸山茂氏

高山市郷土館長として郷土館の発展に努めるとともに、「飛騨金森史」他多くの著作をされ、飛騨地域の歴史・文化に大きく貢献されました。

## ◎ 新入館・園紹介

平成2年度に入り次の2館が入会されました。

### ○ 印籠美術館

〒506 高山市大新町1丁目98番地

TEL 0577-32-8500

### ○ 松井屋酒造資料館

〒501-33 加茂郡富加町加治田688-2

TEL 0574-54-3111

## ◎ 日本博物館協会機関紙「博物館研究」への記事掲載について

このことについて日本博物館協会東海支部から依頼がありました。下記の原稿内容で執筆を希望する館園がありましたら8月中旬までに事務局まで申し出て下さい。

### 原稿内容

- ① 全国の他の博物館運営に参考となるような模範活動
- ② 単独または合同企画展の成功例
- ③ 博物館展示解説において、列品管理、コンパニオン解説等、他の参考となるもの
- ④ 博物館の行う〇〇教室、講座等の成功例

## 編集後記

・平成2年度第1号をお届けいたします。5月7日に行われました総会の折、以下の方々が平成2年度・平成3年度機関紙委員として選任されました。

今後各地区の機関紙委員へ各館・各園のニュース、最新情報などどしどしお寄せ下さい。

- 委員長 川瀬善忠 (岐阜県博物館)
- 委員 中島 恬 (岐阜県博物館)
- 横田 宏 (岐阜市歴史博物館)
- 野尻佳与子 (内藤記念くすり博物館)
- 斉藤尚子 (斉藤美術館)
- 加藤よね子 (岐阜県陶磁資料館)
- 三島藤男 (日下部民芸館)
- 水口登美子 (高山屋台会館)